

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	エ	21
問二	Ⓐ	21
	イ	22
	Ⓑ	22
	ア	23
	Ⓒ	23
	エ	24
問三	ウ	25

問四	ア	26
問五	A	26
	誰	
	か	
	の	
	世	
	話	
	B	
	自分	
	が	
	ど	
	う	27

問六	自分	28
	が	
	病	
	気	28
問七	エ	29
問八	エ	30

問九		
ま	気	姉
れ	づ	の
な	き	話
い	、	か
気	祖	ら
持	父	祖
ち	が	父
。	気	の
	の	苦
	毒	し
	で	み
	、	に
	い	初
	た	め
	た	て

2

問一	1	36
	イ	
	2	36
	ウ	37
	3	37
	エ	38
	4	38
	カ	39
	5	39
	オ	40
問二	ウ	41

問十	も	35
	う	
	少	
	し	
	様	

問三	X	42
	エ	
	Y	
	ウ	
	Z	
	ア	
問四	ヒ	43
	マ	
	ラ	
	、	
	る	
	現	
	象	

(配点)
 ①〔問二〕各2点、〔問九〕7点、他各5点 } 計150点
 ②〔問一〕各2点、他各5点 }
 ③④⑤⑥各2点

⑥	①	①	①	①	問七	問五
喜	成 功	イ	ウ	ウ	ウ	イ
66	61	58	54	50	46	(略)
⑦	②	②	②	②	問八	ン
照 明	永 住	ウ	エ	カ	ア	ド
67	62	59	55	51	47	(略)
⑧	③	③	③	③	問九	る
救	血 液	ア	ア	ウ	カ	動
68	63	60	56	52	48	(略)
⑨	④	④	④	④	問十	き
折	単 位	イ	イ	エ	A	(略)
69	64	57	53	49	(略)	44
⑩	⑤				山	問六
厚	眼 科				地	イ ↓ ア ↓ ウ
70	65				49	(略)

【解説】

1 まはら三桃の「奮闘するたすく」(講談社)から出題しました。

認知症の祖父によりそう家族の気持ちや、認知症を患っている祖父の苦しみが描かれています。高齢化社会が進む中、認知症は大きな問題になっていきます。「老い」を理解しようとすることは、今後必須の課題といえます。佐を通して、介護をする人、される人のそれぞれの気持ちを理解しましょう。

問一 A2 関係つけ 知識

《1》直後に「じつと見た」とあることに注目。ウは睨みつける時に使う言葉なので、不適切。《2》直前の「顔を赤くした」「よっぽど恥ずかしかったのだろうか」という表現から、祖父が照れていることを理解しましょう。「引っ込んだ」のは照れ隠しと考えられます。《3》空腹のあまり、口いっぱい食べものを入れながら返事をしています。

問二 A2 知識

A 「ただならぬ」は「普通ではない、ただごとではない」の意味。
 B 「もどかしい」は思い通りにならなくて、落ち着かない気持ちのこと。じれったい、はがゆいと同意。空腹の佑は、一刻も早くお腹を満たしたいのです。
 C 「かくしゃくとしていた」は年老いてもなお健康で元気なさまを言います。

問三 B1 具体・抽象 比較

直後に「困りきった表情で、祖父を見やる」とあるので、母

は、祖父に対して「困っている」ことがわかります。ここで、林さんに対して困っているとするとするア、イは不適切。エ「認知症であることすらわかっていない」とありますが、後に出てくる仏壇の前のできごとから分かるように、祖父が自身は認知症であると気づいていることを母は知っているので、不適切。

問四 B1 理由 比較

林さんだけが「しつかりしてる」と言ってくれた後から祖父の態度が変わっていること、——線②直後から、祖父が自分の思いや考えを説明していることに注目します。このことから、祖父が、自分を認めてくれた林さんの言葉で気持ちが落ち着き、率直な気持ちを話そうと考えたことが分かります。イ「すっかりうれしくなった」、エ「みんな自分をばかにしている」「林さんは自分を尊敬してくれている」の部分が不適切。ウは林さんの言葉がきっかけになったことに触れられていません。

問五 B1 具体・抽象 関係つけ

林さんが、祖父の考えを理解して「わかった」と言い、「そうよね。そうよ」と林さんが理解した内容を説明していることから、祖父の言葉、そして、それを受けた林さんの言葉からあてはまる言葉を書きぬきましょう。

問六 B1 理由 関係つけ

——線④の直後に「祖父が言い残していった言葉が引っかったのだ」とあります。前の文の補足説明をする「のだ」に注目しましょう。これは——線④の理由になるということが分かります。読み進めていくと、理子との食事の場面で「祖父

の口からは、『ぼけてなぜおらん』というセリフを、これまで何回かきいていたから、最後に言い残した、『わしだって、好きでぼけてしまったわけではない』は不思議だったのだ」という記述がありますね。佑は、認知症の祖父が自分でぼけていることがわかっているようなことを言ったことが不思議で、「首を傾げた」ことがわかります。□□は、「自分でわかっている」「自覚がある」に言い換えられるかどうかのポイントになります。

問七

B1 具体・抽象 比較

「うつまー」とおいしそうに焼きそばを食べる佑を見て、理子が「不思議なものを見るように目を細めた」理由を答えます。——線⑤の四文後から「麵はやわらかいくせに……焼きそばの、真の実力が見えてきた」と、理子が作った焼きそばがおいしくないことが書かれています。イ・ウはいずれも祖父に関係する選択肢ですが、——線⑤を含む一文に、「**なにか**」を思い出したみたいに、その目を戻した」とあり、その後**祖父の話**を始めているので、——線⑤の段階では、祖父のことは頭をよぎっていないことがわかります。

問八

B1 具体・抽象 比較

佑は、姉の話から、認知症の人は「まともなときには、自分がおかしいことがわかってしまって、あせつたり落ち込んだりする」ことがあること、そして、プライドの高い祖父が「夜中仏壇の前で」一人、「わしはどうしてこんなになってしまったのか」と「泣いて」いたことを知ります。ここから祖父の苦しみの内容を読みとりましょう。祖父は、不意に自分がぼけてし

まっていることがわかり、自分が自分でないような感覚に襲われるこわさ、そして周囲に負担をかけてしまういたたまれなさから誰にも相談できずに、仏壇の前でその苦しみを吐露しています。ア「認知症であることに気付けないまま」、ウ「認知症という病気を理解しようとしないう家族」は不適切。イ祖父が仏壇の前で泣いているのは「氣」が「弱い」からではなく、自身の病気に対するやるせなさや不安からだと考えられます。

問九

B2 具体・抽象 理由 推論

問八の関連問題。この気持ちになったのは、姉の話で祖父の苦しみに初めて気づいたからです。また、「誰かに素手で、心臓をつかまれた」とあることから、祖父の苦しみが衝撃的であり、そんな思いをしている祖父を思うと、はりさけそうなほど苦しい気持ちになっていることがわかります。このように、理由と気持ちの二つの要素が入っているかが採点のポイントになります。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問十

B1 分類

物語文において、段落を分けるときは、場面（いつ・どこ・登場人物）に注目して分けましょう。この場合は、林さんが訪ねてきた祖父の家での場面と、佑と理子の家での食事の場面に分けられます。

② 島村英紀の「火山入門」(NHK出版)から出題しました。

火山活動や、プレートの動きは、地形に大きな影響を与えています。そして地形が変化することは、気候やその土地のくらしにも影響を及ぼします。この流れを文章から理解していきましょう。科学系の説明文は、その分野の知識があれば、理解の手助けになります。理科や社会で学んだことを生かして、論理をていねいに読み取りましょう。

問一 A2 関係つけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。《1》の前後でインド亜大陸の動きが時系列にそって書かれているので、「そのうち」が入ります。《2》の後で直前の文の具体例が述べられているので「たとえば」が入ります。《3》本筋から離れて、簡単な補足をしています。「ついでに言えば」と同じ意味なので「ちなみに」が入ります。《4》以降で地球温暖化の話になっているので、話題を変える「ところで」が入ります。《5》の後には、直前のフレーズの言葉の言い換えが書かれているので、「つまり」が入ります。

問二 B1 置換 比較

まず、——線①の後にあるように、「日本の山は…火山活動やプレートの動きによって作られたもの」ということを押さえておく必要があります。「日本海沿岸の冬の降雪」は、季節風が日本海上空で多湿な雲となり、「火山活動やプレートの動きによって作られた」日本の高い山にぶつかって「おこる現象ですよね。このことから、答えはウということになります。指示語の問題は、必ず答えを——線部にあてはめて確認する習慣を

つけておきましょう。

問三 B1 関係つけ 比較

空欄を含む一文に「このように」とあることからわかるように、ここまでの内容がまとめられるかどうかを問う問題です。「プレートが動く↓地形が変わる↓気候に影響が及ぶ」という流れでしたね。直前の文では季節のことの説明をしていないので、Zには「気候」が入ります。

問四 B1 具体・抽象

「どのようにして起きる現象」と聞かれているので、「現象」となる部分を探しましょう。

問五 B1 具体・抽象

——線③は「四川大地震」を起こした動きと同じ動きです。その「動き」について書かれている直前の段落を読むと、「インド亜大陸は北上を続けて…ユーラシア大陸に衝突した。しかし、北上の動きは止まらず…」とあります。この内容を十三字で「動き」の形で示されている部分を探しましょう。

問六 B1 関係つけ 比較

並べ替えの問題です。接続語や、指示語、空欄前後の流れを押さえながら取り組みましょう。イは「このため…ヒマラヤ山地はいまでも高くなり続けている」とあり、空欄直前の文「インド亜大陸が北上する動きはいまも続いている」がイの理由にあたる部分だと分かるので、イが一文目にきます。「ちなみに」とあるので、一文目にくる可能性の低いAには「山頂には貝の

化石がある」という部分があります。ウを読むと、「インド洋の海底だったものが…」まで盛り上がった「のだ」とあって、指示語もあり、後から補足説明をする「のだ」もあることから、ウがアの補足説明をする文だと分かります。よって、イ↓ア↑ウという流れになります。

問七

B1 具体・抽象 比較

このニュースの二文後に「これも偏西風にうまく乗ったからで、最大で時速約322キロの強力な追い風となった偏西風に押されて、対地速度は音速に近い時速約1200キロになった」と偏西風の強さを強調する文があります。

問八

B1 具体・抽象 比較

——線⑥は「オホーツク海高気圧」のことですから、これのでき方が書かれた——線⑥の直前の三段落の内容と合致するものを選びましょう。

問九

A1 知識

気流が分断されない、ということは、当然合流もしないということなので、収束は「弱く」、オホーツク海高気圧の勢力も「弱く」なります。他の選択肢は、ア「重箱の隅をつつく」、イ「低きところに水たまる」、ウ「一寸の光陰軽んずべからず」、エ「船頭多くして船山に登る」オ「パンは剣よりも強し」です。

問十

B1 理由 関係づけ

日本の水が軟水なのに対して、ヨーロッパの水は硬水です。軟水になる仕組みは直接書かれていませんが、それと対比され

ている硬水になるしくみが書かれた部分を参考に解答を作成するとよいでしょう。

3

A2 知識

修飾語の問題です。

①④「たとえ」も「まるで」も「たとえても」、「まるで」うだ」のように決まった言い方と結びつく、呼応の副詞です。呼応の副詞はそれぞれの決まった言い方の部分にかかります。

4

A1 知識

それぞれの慣用句の意味を後に示しておきますので、間違えたものはしつかり見直しておきましょう。オの「安心」の意味の慣用句は「胸をなでおろす」です。

- ①うでが上がる…上手になる。
- ②口をとがらせる…不満に思っている気持ちを表情に出す。
- ③顔を出す…会合などにちよつと出る。
- ④胸をうたれる…心が強く動かされる。

5

A2 知識

文の組み立ての問題です。各文の主語述語をきちんととらえ、どの言葉がどの言葉にかかっているかはつきりさせましょう。

① 主語「ぼくは」述語「見た」。「一人で」・「試合を」は「見た」にかかる修飾語です。

- ② 主語「母は」述語「出会ったそうだ」。「駅で」・「友人と」・「ぼうぜん」はいずれも「出会ったそうだ」にかかります。
- ③ 主語「気持ち」が「述語「あふれた」」。主語にかかる言葉（あたたかい）があるのはこれだけなので、答えはアになります。